
『後悔する人生』

神滅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『後悔する人生』

【Nコード】

N2523Q

【作者名】

神滅

【あらすじ】

いじめにあっていた少年が中学校に入学してのお話。

あなたは後悔してますか？

僕は過去に酷いことを受けてきた。

学校では仲間はずれ、よつてきたと思つたらいじめ。
家では何時も一人。

―感情なんて、すべて置いてきましたよ―

中学校に入学した時、小学校……。いじめられたことを知ってる奴が
少ないように、皆と別の学校に入学した。
新しい日々を暮らそうとおもつて……。

しかし、僕にはそんなこと無駄な抵抗だったのかもしれない。
意思とは別で感情が人を拒絶した。

誰かの近くにいたいっつと言う意思と誰かのそばにいと不安になる
感情。

この二つが僕の中で無限にループする……。

そんな、ある日

一人のクラスメイトが僕に近づいてきた。

「ねえ、私と話しをしませんか？」

その子を見たときドキッとしてしまう。

可愛かった……。

それから、彼女と話す日々が始まった。

そんな幸せな時間が続いた。

この時間が永遠に続けばいいと思った。

ある日、学校に登校中。

同じ小学校だった女の子に出会った。

向こうは僕に気づいていない。

それでも、僕の頭の中によみがえる…。

その女の子に放課後呼ばれ、

『愛してる』っと言われたことを…。

その後、それがいたずらだったと知ったときの絶望も…。

気分が悪くなりながら僕は学校を目指した。

いつものように彼女と楽しく話をする。

その日の最後の休み時間が終わろうとしたときに彼女がボソリと言った。

「放課後…。教室に入ってください」

そう言っつて、自分の席に戻る彼女。

その時、僕の頭の中には今朝思い出したあの記憶しかなかった…。最後の授業を僕は放心状態ですごした。

そして、放課後…。

教室に残り、彼女と僕の2人だけになる…。

彼女の言葉が怖かった…。

あの日のようになることが怖かった…。

彼女は僕の席の前の席の椅子に座る…。

「大事な話があります…」

怖い…怖い…!

「私は君の事が…」

「ねえ…」

彼女が決意して言葉を出している時に僕がその決意をさえぎった…。

「僕は『愛してる』なんて言葉欲しくない…」

それが僕の答えだった…。

「え…」

涙しそうになる彼女…。

「そうなんだ…。私、邪魔だったんだね…」

必至に涙を堪える彼女の表情を見るのがつらかった…。

こんなつもりじゃ、なかったのに…。

君の涙は見たくなかったのに…。

嫌いじゃないのに…。

「ううう…」

彼女は涙を堪えながら教室を飛び出した。

僕はまた、後悔をする…。

次の日、彼女にとって僕を見ることすらつらかったのだろう…。

僕は彼女を見ることに何も感じなかった。

あの日のあの時に僕は感情を、すべて置いてきたのだ…。

それから彼女と僕が会話をすることはなかった…。

(後書き)

はい、暗い。

ネット友からのお題でできた作品。

これからお題系使っていくかも

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2523q/>

『後悔する人生』

2011年1月26日06時18分発行